第5章　先導的大学教育改革取組の経験に基づく「共通教育」改革の展開
−山口大学の「全学共通教育」改革に関する訪問調査−

呉　書雅（広島大学）
串本　剛（東北大学）

1.　背景・目的

本稿は，先導的大学教育改革取組みの経験に基づく「共通教育」改革がどのように展開されているかを解明するため，山口大学における政策的な誘導に先んじて策定された「目標達成型大学教育改善プログラム」の経験を基に展開されている「全学共通教育」改革を事例にして，同大学に関する文献調査と訪問調査から得られた結果をまとめたものである。

近年，「高等教育の質保証」及び「学士力の達成」が，大学教育改革において，軽視できないキーワードの一つとなっている。「高等教育の質保証」及び「学士力の達成」の実現に向けて，3 つポリシーの明確化の必要性が認知されている。

平成 17 年 1 月に中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申は，各大学がアドミッション・ポリシー（入学者選抜の改善），カリキュラム・ポリシー（教育課程の改善），ディプロマ・ポリシー（「出口管理」の強化）を明確化することが必要であると明記している。

さらに，大学設置基準が改正され（平成 20 年 4 月），中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成 20 年 12 月）や日本学術会議の回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」などの様々な答申や回答においても，「高等教育の質保証」及び「学士力の達成」が同様に各大学に重要な課題となっている。

山口大学は前述した答申で示された「高等教育の質保証」や「学士力の達成」の実現に向けて，平成 20 年 4 月の大学設置基準の改善が実施される以前から，「Graduation Policy（以下，GP）」と「Curriculum Map（以下，CUM）」の取り組みを独自に進めてきた（山口大学，2011）。「GP」とは，「大学が教育活動の成果を通じて学生に保証する最低限の基本的資質」を記述したもので，「CUM」とは，GP と各授業の達成目標との整合性をマトリックス表で示したものである（山口大学，2011）。

その後，山口大学は，文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」（平成 20〜22 年度）に採択され，目標達成型の教育改善を定着・発展させるための教育支援プログラムを打ち出した。これは，山口大学を先駆的事例として取り上げるに足る実績である。

こうした教育 GP が推進されてきて，山口大学では，少子化による志願者の減少，進学率の上昇による学生の質の変化，財政状況の悪化による教育予算の減少といった問題に直面しているので，「学生が共通してもつべき素養・能力の明確化」・「全教員出動体制」による

分科会制度から「全部局出動体制」への移行・「大学の有する人的資源の有効活用とカリキュラムのスリム化」という観点に沿って全学共通教育の見直しを行っている（糸長，2013）。2013 年度からは，山口大学では，共通教育に 4 学期制を導入し，科目選択については，教養コア科目 8 単位，英語科目 6 単位，一般教養科目 16 単位の計 30 単位を，共同獣医学部を除くすべての学部で必修とした。山口大学では学科毎の GP 策定や CUM の作成に早期から着手しており，この度の共通教育改革も，今後多くの大学に参照されていくことが予想される。このように山口大学が政策推進に先んじて改革に着手した背景に注目しながら，「全学共通教育」の改革について分析していく。

以下では，まず山口大学のプロフィール（2 節），山口大学の教育改善（GP・AP・CUM 等）の早期導入の経緯（3 節）を明らかにし，「共通教育」の設計・運営実態（4 節），「共通教育」の成果・今後の課題（5 節）について記述する。最後に，調査から得られた知見を要約し，大学改革に対するインプリケーション（7 節）を提示する。

2. 山口大学のプロフィール

（1）沿革・規模

その淵源を「山口講堂」（1815 年造営）にまで遡ることができる山口大学は，1949 年に新制大学として創設された。8 学部 25 学科（5 課程）からなる学士課程では 8,749 名（2014 年 5 月 1 日現在）の学生が学び，全学で 1,087 名（2014 年 4 月 1 日現在）の専任教員が在籍している。吉田キャンパス（山口市）（人文，教育，経済，理，農，共同獣医の 6 学部），常磐キャンパス（宇部市）（工学部），小串キャンパス（宇部市）（医学部）の 3 キャンパスから成り立っている（山口大学，2015）。

また，1996 年に学内措置で設置された共通教育センターが 2002 年に大学教育センターに改称された。同センターは，山口大学における共通教育，専門教育を体系的に捉えた教育システムの実施，授業評価等の全学システムの実施並びに教育活動評価及び授業改善の企画等をより具体的に，実践的に行うために大学教育の企画，実施を行い，山口大学の教育活動の充実・発展に寄与することを目的とする。同センターには教育企画・実施部と教育評価部が置かれており，前者の支援組織として 23 の授業科目別分科会が専門分野毎に組織されている。現在 11 名の専任教員が所属している。なお，大学教育センターは，5 つのセンター[1)]からなる大学教育機構を構成するセンターのひとつである。

（2）山口大学の教育改善（GP・AP・CUM 等）・共通教育

現在，日本の大学には 3 つのポリシーを統合した実質的な運用が求められている。本稿の調査対象の山口大学では，平成 18 年度から独自考案した GP が，他大学の Diploma Policy に相当する。また，山口大学の GP は，「目標達成型大学教育改善プログラム–ラーニング・アウトカムを重視した大学教育改革の組織的取組–」の一環であり，文部科学省「質の高い

大学教育推進プログラム」（教育 GP）に採択された大学教育改革における優れた取組でもある。一方, 全科目が GP とのつながりを明確化するため, 山口大学では平成 18 年度に CUM が並行して策定された（山口大学，2011）。

その後， 22 年度には，全学の学部研究科再編等の会議において，共通教育の改革に向けた検討が行われた。山口大学の共通教育とは,「教養教育」の目標を達成するために初年次教育を中心に行う教育である。その理念には，山口大学の理念「発見し・はぐぐみ・かたちにする・知の広場」に基づき,「自らが発見し・はぐくみ・かたちにすることを通じて, 真に人間的な平和・幸福・豊かさを探求し，実現するための礎を築く」が掲げている（山口大学大学教育センター，2014）。

（３）調査日・調査対象者・調査項目

訪問調査は，平成 27 年 1 月 19 日に，山口大学大学教育センターにおいて行われた。対応して頂いたのは, 山口大学大学教育センター長　糸長雅弘氏, 副センター長　小川勤氏, 准教授　林透氏，学生支援部教育支援課長　庄野栄二氏，学生支援部教育支援課共通教育係　松本晃氏である。調査は約 1 時間半で，調査項目を下記の通り用意した上で，半構造化インタビューの形で行われた。

調査項目

1. GP とカリキュラム・マップ／フローチャートについて
・設定の時期と経緯，手続き
・共通教育や学士課程教育への影響
・更新の計画，進捗状況（YU CoB CuS を含む）
2. 共通教育の改革について
・改革の時期と経緯，手続き
・4 学期制の意図と実際
・30 単位必修の意図と実際
3. 単位制度の実質化について
・共通教育改革とのつながり（「山口と世界」のコモンルーブリックを含む）
・学修実態の把握方法と現状認識
・関連する今後の課題

3. 山口大学の教育改善（GP・AP・CUM 等）の早期導入の経緯

GP・CUM・CF 等の実施初期においては，前述した通り，日本の学士課程では，実質的には共通教育と学部の専門教育とが分離した形で実施されており，また，共通教育と専門教育との関係は大学や学部によっても違いがあることは明らかであった（小川，2010）。糸長氏は，この問題の根源は共通の教育目標などを設定する発想が少ないことにあると述べ

る。

他方で，当時から海外の大学では，「ラーニング・アウトカムズ」を重視した教育改革が，大きな潮流になっていた。この背景の下で，山口大学では早期から全ての学部や研究科でラーニング・アウトカムズを重視した大学教育を推進することが行われた。当時の推進者である沖裕貴氏は，初中等教育において教育内容・学習成果を明示するという職務経験があり，高等教育においても，教育の使命・目標の明示を重視すべきだと提起した。そのため，DP と同様の意義を持つグラデュエーション・ポリシーの策定の検討を行うとともに，従来あまり具体性のなかったアドミッション・ポリシーの見直しや GP を実現するために最も重要なカリキュラムの必然性をチェックするためのカリキュラム・マップの作成に取りかかり，2006 年 4 月に GP と CUM を公開した。このような，全ての学部，研究科が参加した形でラーニング･アウトカムズを意識した GP や CUM の策定に本格的に取り組んでいる大学は，その当時としてはあまり多く存在していなかった（小川，2010）。

4. 「共通教育」の設計・運営実態

前述した通りに，山口大学では早期から全ての学部，研究科が参加する「全学的」な教育改革の取組みが行われてきた。本節では，こうした経験を基づく全学「共通教育」の展開について検討してみたい。

（1）目的

山口大学は，教育理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする」を実践するためには，特定の分野に偏よらず幅広い分野を学んで，考え方やものの見方を幅広く身につけることが必要だと検討してきた。そのため，山口大学は 25 年度から共同獣医学部を除いた全ての学部で，共通教育の授業を必修科目とすることになった。

「山口大学ブランド」の資質を保証する基盤を作ることも，共通科目必修化の目的の一つである。従来の山口大学の共通教育では，人文科学・社会科学・自然科学・応用科学といったそれぞれの枠の中で合計何単位を選択するというシステムであったので，同じ学部・学科生であっても履修科目はバラバラであった。こうした必修化することにより，学生が共通して持つべき素養・能力を明確化することとなった。

（2）導入の経緯

山口大学では，平成 24 年度中に全学的議論（学部・研究科再編等会議）を重ねることで，前述した共通教育改革の必要性と方向性に検討した。そのなかで，これまでの共通教育の問題点，①全ての学生に共通する内容とはいえない，②初年次教育と学部教育の接続不良，③開設クラス数の肥大化，④教育改善の停滞という 4 つの問題点を提起した（糸長，2013）。解決策として，山口大学は平成 25 年度から新たな共通教育構築の方向性・実施体制を定めた（表 5-1・5-2 参照）。

表 5-1　新たな共通教育の方向性

○「山口大学ブランド」の確立
　卒業生の「質」を保証し，「山口大学ブランド」を確立するために，現在の学部・学科ごとに異なっている習得内容と単位数を一定の範囲で共通化する。
○「国際感覚・国際活動力」の育成
　世界で活躍するためには，「英語力」を見につけていることが基本であり，我が国や世界の文化・課題を理解していることが求められていることから，学生の「国際感覚・国際活動力」の育成を図る。
○「就業力」「社会人力」の向上
　社会人としての基礎力の育成が求められていることから，学生の「就業力」「社会人力」の向上を図るため，「キャリア教育」を充実させる。
○教育資源の有効活用
　山口大学の教育資源を効率的かつ効果的に運用するため，「全教員出動体制」から「全部局出動体制」（全部局責任体制）への転換を図る。

出典：糸長雅弘（2013）「山口大学の取組み」第 61 回中国・四国地区大学教育研究会シンポジウム第 1 部（当日資料より筆者作成）

表 5-2　共通教育改革の骨子

　○専攻分野ごとに異なっていた共通教育の修得単位数を見直し，入学した全ての学生が同じ「学習の目的」に向けた 30 単位を共通教育の必修科目として履修する。
　○山口大学の教育資源を有効に活用するため，「全教員出動体制」から「全部局出動体制」に転換し，カリキュラムをスリム化する。
　○共通教育の業務分担と責任については，次の通りとする。
　　開講部局：担当する分野における授業計画の構築，担当教員の選任など
　　大学教育機構：
　　１）共通教育の実施・運営の掌理・統括
　　２）「学習の目的」との整合性の検証と目的達成のための指導など
　　３）学生授業アンケートその他の教育改善のための資料収集など
　　４）共通教育の授業時間割の策定
　　５）担当教員の調整
　○外国語教育は，世界的共通言語である「英語」のみを必修とする。
　○異文化・多文化理解の基盤として，地域を知る授業（「山口と世界」）を新設する。
　○キャリア教育を必修とする。（「知の広場」初年次用，「キャリア教育」高年次用）
　○共通教育の実施にあたって，非常勤講師の抑制に努める。

出典：糸長雅弘（2013）「山口大学の取組み」第 61 回中国・四国地区大学教育研究会シンポジウム第 1 部（当日資料より筆者作成）

（3）手続き

共通教育の担当は，H25 年度以前には各学科分科会であり，各教員が 1 科目担当となっていた。しかしながら，こうした担当体制の下では，学部毎に履修が異なり，各教員の教育内容も異なる。そのため， H25 年度から分科会の担当から「部局責任体制」に切り替えた。担当体制も，各教員が 1 科目担当から，各部局において 10 単位の科目を提供することになった。具体的にいえば，H25 以前，英語分科会で各教員が 1 科目担当となっていたが，H25 年度以降 2000 人程度の 1 年生のために，人文系部局は，責任を持って，1 クラス 100 人規模のクラスごと，20 クラスを提供する（他の部局に依頼することが可能）。そのため，担当体制は必ずしも 1 教員 1 科目ではなくなるが，共通教育を担当していない教員は専門科目の負担が大きくなる(当日閲覧資料より)。

また，新たな共通教育体制に転換しても，分科会は残された。その役割は，どういう専門性を有する教員がいるのかを把握することである。このなかで，大学教育センターの役割は，調整担当であり，単位数の提供等の責任は全て各部局に一任されている。

（4）内容・特色

新しい共通教育の学士課程教育における位置付けを示したのが図 5-1 である。また，共通教育の科目は全学必修の 30 単位である。30 単位の内訳は，人文教養・社会教養・自然教養・学際的教養の各領域の基本的な考え方を修得する「一般教育科目」16 単位，英語力を身につける「英語」6 単位，基本的な学習スキル・生活スキルを身に付ける「教養コア科目」8 単位である。1 単位あたり 8 回の授業が行われ，1 回の授業は 90 分であり，学生への課題は試験，レポートをメインとする。共通教育授業科目の内容は表 5-3 の通りである。

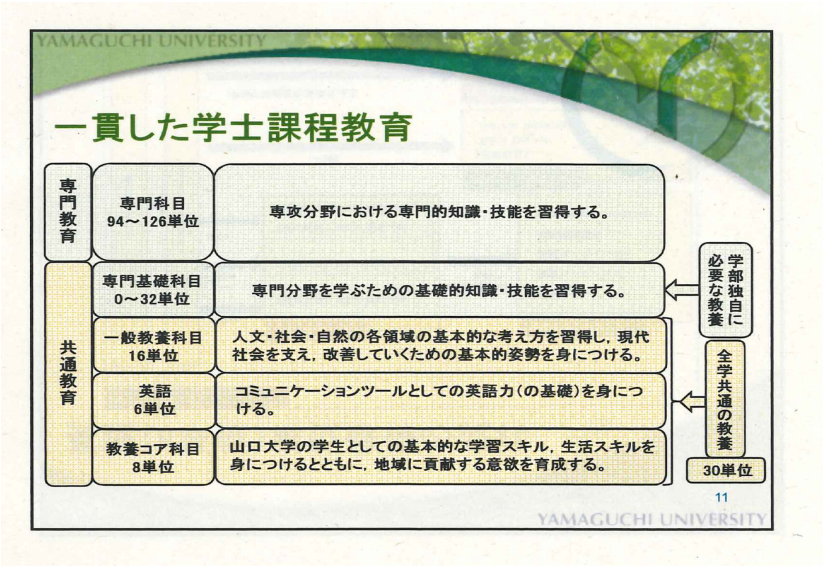

図 5-1　山口大学の一貫した学士課程教育

出典：糸長雅弘（2013）「山口大学の取組み」第 61 回中国・四国地区大学教育研究会シンポジウム第 1 部（当日資料より）

表 5-3　平成 26 年度共通教育授業科目

① 教養コア系列

山口大学の学生としての基本的学習スキル，生活スキルを身につけるとともに，地域に貢献する意欲を育成する。

・「基礎セミナー」：高等学校から大学への円滑な移行を図るため，学習および大学生

活に必要なスキルを習得するとともに，自ら考え・判断・表現・行動・発言する基礎的な能力を身につける。

・「情報リテラシー演習」・「情報セキュリティ・モラル」：情報および情報手段を主体的に選択し，正しく安全に活用するための基礎的な地域・技能を身につける。
・「運動健康科学」：自らの生活の質を高め，健康で文化的な生活を営むための基礎的知識と方法を習得する。
・「山口と世界」：山口県の歴史・文化・経済・産業・自然・教育など身近な地域の特色を知り，地域社会の発展に寄与する能力や態度を身につけるとともに，それらの資質を将来所属する地域や国際的環境で活かす力を養う。
・「知の広場」・「キャリア教育」：自己の在り方・生き方を考え，卒業後に社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的知識や態度を身につける。

② 英語系列

コミュニケーションツールとしての英語力（の基礎）を身につける。

・「TOEIC 準備」，「Basic English」，「English Speaking」，「英語リーディング」，「英語ライティング」，「英語特別演習」，「Comprehensive English」等：汎世界的なコミュニケーションツールとしての英語力（の基礎）を身につけ，積極的に対話・討論・発表する力を養う。

③ 一般的教養系列

人文・社会・自然の各領域の基本的な考え方を習得し，現代社会を支え，改善していくための基本的姿勢を身につける。

○人文教養領域：社会と文化およびそれらと人間の関わりに関する基礎的知識を習得するとともに，多文化・異文化を積極的に理解し，地域・社会に貢献する態度を身につける。

・「哲学」：哲学・思想・宗教・芸術について基本的知識を身につけ，諸課題を発見・分析・考察する力を養う。
・「歴史学」：歴史上の諸事実がどのように解明され，どのような歴史的意義を有するかについて，時代や地域の固有性や普遍性を踏まえながら理解する力を養う。
・「社会学」：社会学・社会心理学・文化人類学・民俗学について基本的知識を身につけ，現代社会の諸問題を発見・分析・考察する力を養う。

○社会教養領域：現代社会について基礎的な知識を習得し，良識ある市民として地域・社会に貢献する態度を身につける。

・「経済と法１」，「経済と法２」，「経済と法３」：経済や法律に関する基本的な知識を習得し，現代社会の諸問題を自ら発見・分析・考察する力を養う。

◯自然教養領域：自然についての基礎的な知識を習得し，自然がかかわる現象や社会的問題について考察する力を養う。

- 「自然科学１」・「自然科学２」：自然科学の諸領域の基礎を学ぶことを通じて，論理的思考力や合理的判断力を身につけ，自らの生活や学習に活かす力を養う。

◯学際的教養領域：現代社会の諸問題と，その解決のための取組や課題などについて，情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。

- 「人間の発達と育成１」，「人間の発達と育成２」：現代のさまざま分野における発達環境や人づくりの面から，人間の心理・発達や人材育成について理解し考察する力を養う。
- 「文化の継承と創造１」，「文化の継承と創造２」：伝統の継承や変容，異文化間の交流・情報化など現代文化の動きを理解することを通して，前世代から学ぶもの，次世界に伝えるものに関して考察する力を養う。
- 「社会と医療」：保健・医療・福祉の観点から健康問題を総合的に捉え，その将来あるべき姿について考察する力を養う。
- 「科学技術と社会」：人間生活における科学技術の役割を理解し，将来あるべき姿について多角的な視点から考察する力を養う。
- 「環境と人間」：自然の中で生きる人間と環境の問題・課題を理解し，環境・エネルギーの将来あるべき姿について考察する力を養う。
- 「食と生命」：人間が生きるために必要な食資源について関心を払い，生命に関して多角的な視点から考察する力を養う。

④　専門基礎系列：（理系学生のみ）

◯理系基礎分野・学部専門基礎分野：自らの専門分野を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を習得する。

⑤　教職基礎系列：（教員免許取得希望者のみ）

教育職員としての基礎的教養を習得する。

◯教職基礎分野

- 「日本国憲法」：日本国憲法についての理解を通して，人権および平和と民主主義に関する，教育職員としての基礎的教養を習得する。
- 「スポーツ運動実習」：スポーツ，運動についての体験的な理解を通して，健康と安全に関する，教育職員としての基礎的教養を習得する。

⑥　教養展開系列：（自由履修）

発見し，はぐくみ，かたちにするための発展的教養を習得する。

◯国際展開分野：国際的に活躍するための教養と技能を習得する。

・「国際展開科目」

◯地域展開分野：地域の課題を理解し，その将来あるべき姿について考察する力を養う。

・「地域展開科目」

◯知財展開分野：知的財産についての幅広い知識を習得し，知的財産がかかわる社会的問題について考察する力を養う。

- 「知財展開科目」

出典：山口大学大学教育センター（2014）「平成 26 年度共通教育履修案内（一年次の学生用）（当日資料より筆者作成）